

「酒田市沖洋上風力発電事業」 住民学習会

令和 8 年 3 月

酒田市地域創生部商工港湾課



(1) 日時: 令和7年6月29日(日) 13:30~16:15

(2) 会場: 酒田市公益研修センター(東北公益文科大学キャンパス内)

(3) 参加人数: 134名(うちマスコミ5名) 酒田市民87名:65%

(4) プログラム

① 本県における洋上風力発電事業の取り組み状況について
(説明者: 山形県)

② 講演(1) 洋上風力発電施設から発生する音の健康影響について
(説明者: 青山学院大学 佐藤敏彦 特任教授(公衆衛生学等))

③ 講演(2) 洋上風力発電(着床式)事業における地震・津波対策について
(説明者: 早稲田大学理工学術院 清宮理 名誉教授(構造工学・地震工学))

(5) 住民学習会の様子

右記二次元コードから確認できます。

(酒田市公式Youtubeチャンネルにアップロードした動画が閲覧できます。)



講演① 洋上風力発電施設から発生する音の健康影響について (青山学院大学 佐藤敏彦 特任教授(公衆衛生学等))

【概要】

- 聞こえない音は、振動として感じることはできない。また最新の知見(2023年)として、風車から発生する超低周波は、風車症候群※の原因といえないことが分かっている。
※風力発電設備から発生する騒音や低周波音などが原因で生じる不眠、頭痛、めまい、吐き気、不安感、耳鳴りなどの健康被害

- ただし、風車音(スイッチュ音)に慣れることは難しい。予防対策としては、正しい情報の周知により、住民に安心感を与えることが重要である。



講演② 洋上風力発電(着床式)事業における地震・津波対策について (早稲田大学理工学術院 清宮理 名誉教授(構造工学・地震工学))

【概要】

- 洋上風車は海外の技術導入が前提だが、日本の自然条件(Ex.台風、地震、落雷、地盤)等を踏まえた基準が適用されている。

- <風対策>2018年台風で陸上風車の転倒(淡路島)等が発生したが、その後、耐風設計が改良されており、最近はこのような事故は発生していない。

- <地震対策>数百年に一度~千年に一度の地震(阪神・淡路大震災等)まで想定している。過去の大地震で大きな被害は生じておらず、現行基準(スカイツリーのような高層ビルと同程度)の妥当性が証明されている。

- <津波対策>津波規模は地域防災計画に準じている。沖合では、波浪の方が波高が高いため、波浪荷重ベースで設計されている。波浪計算は、多数の模擬台風(40~50年の観測記録を基に1万年程度)により推定している。



参加者数 134人 (うちマスコミ5名) 回答者数 100人 回答率 74.63%

【概要】

- 回答者のうち、約7割が酒田市民であった。年代別にみると参加者の約8割は50歳代以上であった。
- 参加者が不安に思っていることは、多い順に ①音による健康影響 ②漁業への影響 ③地震や津波による影響であった。

■ 不安の解消について

講演①

洋上風力発電施設から発生する音の健康影響について

大いに解消された	6%
多少解消された	22%
どちらとも言えない	35%
不安が増した	18%
もともと不安に思っていなかった	11%
回答なし	8%

講演②

洋上風力発電(着床式)事業における地震・津波対策について

大いに解消された	12%
多少解消された	35%
どちらとも言えない	23%
不安が増した	13%
もともと不安に思っていなかった	7%
回答なし	10%

